

体育・スポーツ系学生のための日本語表現法

はじめに——本書の特徴

本書は、体育・スポーツ系学生の日本語運用能力を高めることを目的に作成された初年次教育教材である。世に内容の優れた類書が数多く出版されているが、本書の特徴は、

体育・スポーツ系学生を対象を特化していること
平易で実践的な内容に徹していること

の二点である。本書の執筆者たちは、本書の主たる読者が体育・スポーツ系学生であり、日本語の運用が得意“ではない”場合が多いことを念頭に置き、各章の執筆に臨んだ。そして実際の執筆に当たっては、各章で扱うテーマはもちろん、例文や練習問題でのシチュエーションまで含めて、内容が体育・スポーツ系に連なる平易で実践的なものになることにこだわった。本書を手にとった体育・スポーツ系学生の皆さんは、ぜひ各章の隅々まで目を通し、執筆者たちのこだわりを堪能しつつ、学習を進めてほしい。

一方で、本書には別の側面もある。新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科(新潟県新潟市)に入学した学生は、同学科の保健医療福祉教養科目群にある「日本語表現法Ⅰ」「日本語表現法Ⅱ」を履修する場合、本書を使用して学習を進めることになる。すなわち本書は、同科目で使用されるテキスト(教科書)という位置づけを有している。そのため、本書の内容・分量とも、同科目での半期15回の授業使用に堪える内容になることを第一の目標として作成されている。特定の大学のある科目において利用されることが想定されているため、内容・分量に関しては、他大学での使用に際して不都合があるやもしれない。実際に本書を使用

して授業を展開した先生方や、本書を活用して自学を進めた学生の皆さんにおかれては、内容・分量等を含め、お気づきの点についてぜひご批評をいただきたい。

なお本書の内容の多くは、「刊行の辞」でも言及されているように、初年次教育教材として一定の評価を得ている森下稔・久保田英助・鴨川明子編『新版 理工系学生のための日本語表現法—学士力の基礎を作る初年次教育』（東信堂、2010年刊）を下敷きとしたものである（他方で、第2章「正しい敬語を使用しよう」新設、第5章「データの説明文を書こう」内容改訂、読み物としてのコラム挿入など、本書独自の試みも複数存在する）。また、新潟医療福祉大学にて執筆者たちが行っている授業運営についても、森下らが東京海洋大学海洋工学部において10年間にわたり展開してきた授業実践の知見を参考にしている。その意味で本書は、森下らが作成・開発してきた教材や実践の系統を汲むものであり、有り体にいえば、森下らが作成した教科書の姉妹書としての性質を有している。主題・副題を森下らのそれとほぼ同一にしているのも、森下らの実践に負うところが大きい本書の性質を表すという意図があるためである。

体育・スポーツ系学生の皆さんが、日々の鍛錬や実習等でそれぞれの競技能力や競技指導能力を高めているように、本書での学習を通じてそれぞれの日本語運用能力を伸ばしてくれることを心から願っている。

2016年 春

編者を代表して 吉田 重和

刊行の辞

本書は、体育・スポーツ系の大学に進学した初年次学生を主たる対象として、将来卒業論文を執筆したり、その内容を発表したり、あるいは社会人として活躍したりするときに備え、日本語表現の技能を高めていくための教材である。

その内容や構成は、監修者が編者の一人として出版した『新版 理工系学生のための日本語表現法—学士力の基礎をつくる初年次教育—』が基になっている。解説の文章は活かしながら、文例やデータなどの素材を限りなく体育・スポーツ系に合ったものに置き換えた。そればかりでなく、体育・スポーツ系の学生にとって必要な技能として、敬語表現を第2章に加えるなど、独自の内容を含むものに発展している。

『理工系』の方は、本書と同時に第三版への改訂作業を進め、より理工系らしく、より海洋や船舶の分野らしく、内容を改善していくことになった。特定の大学・学部で用いられている教材を市販化するにあたっては、どこの大学でも活用できるように一般的・普遍的なものに近づけるのが常道と思われる。しかし、出版を引き受けていただいた東信堂社長下田勝司氏の考えは全く違うものであった。東京海洋大学海洋工学部の教科書であることを前面に出すような内容であるべきで、学部の専門的知識に沿ったものというアドバイスを受けた。初版(2007年)と比べ、新版(2010年)は海洋工学部の個性をより強めたものであったが、各方面にご好評いただき、社長の慧眼を再確認する思いが深まった。そこで、第三版の企画では、海や船にこだわった教材づくりを合い言葉とした。本書の企画も、第三版の考え方を体育・スポーツ系に敷衍したものである。

さて、初年次学生の資質・能力の面に目を転じると、2009年告示の

高等学校学習指導要領による教育課程の改善において、各教科等における「言語活動の充実」が図られたことの良い影響が期待されるところである。すなわち、国語科や外国語科のみならず、理科や地理歴史科・公民科、総合的な学習の時間などにおいて、レポートの作成や論述、口頭発表のような知識・技能を活用する学習活動が指導計画に位置づけられることになった。最近では能動的学習(アクティブラーニング)という呼び方も盛んに行われている。こうした教育課程(いわゆる新課程)で高等学校の学習に取り組んだ生徒が、2015年度から大学に入学するようになってきている。この「言語活動の充実」が十全な成果を上げているとすれば、初年次教育における日本語表現技能に係る授業科目はその必要性が検討されなければならないであろう。本書の執筆陣が感じる実態では、学生による習得度の差が拡大している。申し分のない、賞賛に値するようなプレゼンテーションを披露する学生が増えた一方で、文章作成やプレゼンテーションで全く要領を得ない学生も以前と変わらず存在している。学士力を修得させるという達成すべき学習成果(アウトカム)について、すべての学生に保障するために、初年次教育において日本語表現法の授業がこれからも必要とされている。したがって、本書が学生の自学自習を支援できれば、意義深い出版になると考えられる。

本書が体育・スポーツ系の学生たちの学びを支援し、有為な人材として社会に貢献できる学士力を身につけ、活躍に繋がるよう、監修者として心から願うものである。

2016年7月

監修者 森下 稔

目次／体育・スポーツ系学生のための日本語表現法

はじめに——本書の特徴	吉田重和	i
刊行の辞	森下 稔	iii
第1章 わかりやすい文を書こう ——非文・悪文・話し言葉をなくす	本柳とみ子	3
第2章 正しい敬語を使用しよう	吉田 重和	23
コラム：人生って何が起こるかわからない！	中島 郁子	41
第3章 要約文を書こう	武田丈太郎 高木 直之 森下 稔	45
第4章 手順の説明文を書こう	中島 郁子 吉田 重和	63
コラム：「とびきり居心地の良い場」としてのスポーツを求めて	佐藤 裕紀	73
第5章 データの説明文を書こう	遠山 孝司	77
コラム：スキーが教えてくれた故郷の魅力	武田丈太郎	100
第6章 主張文を書こう	佐藤 裕紀 森下 稔	103
第7章 プレゼンテーションをしよう	佐藤 裕紀 久保田英助	117
補 章 文章を書く心がまえとルールを知り、大海へ出よう ——引用の方法、注と文献リストの作り方	武田丈太郎 鴨川 明子	141

おわりに	157
主たる執筆者略歴	160
ワークシート提出課題	165

イラスト：納富 理恵
近藤紀代子

【主たる執筆者略歴】

本柳 とみ子(もとやなぎ とみこ)

1954年生まれ。2012年早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)

現在、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター非常勤講師。

専攻 比較教育学、オーストラリアの教育、教師教育。

遠山 孝司(とおやま たかし)

1971年生まれ。2002年名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育心理学専攻博士課程後期課程単位取得後退学。現在、新潟医療福祉大学健康科学部講師。

専攻 教育心理学、教育工学、教師学。

武田 丈太郎(たけだ じょうたろう)

1980年生まれ。2010年筑波大学大学院人間総合科学研究科一貫制博士課程単位取得後退学。現在、新潟医療福祉大学健康科学部講師。

専攻 スポーツ政策論、スポーツ法学、地域スポーツ研究

佐藤 裕紀(さとう ひろき)

1983年生まれ。2009年早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了(早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程在籍)。現在、新潟医療福祉大学健康科学部助教。

専攻 比較教育学、デンマーク教育研究、生涯学習論。

中島 郁子(なかじま ふみこ)

1985年生まれ。2011年浜松大学大学院修了(臨床心理学修士)。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程在学中。2015年より新潟医療福祉大学健康科学部助教。臨床心理士、認定スポーツカウンセラー。

専攻 臨床心理学、臨床スポーツ心理学、アスリートの心理療法。

【編者略歴】

吉田 重和(よしだ しげかず)

1976年生まれ。2010年早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得後退学。現在、新潟医療福祉大学健康科学部准教授。

専攻、比較教育学、オランダ教育研究、教育制度論。

主要著作：長島啓記編『基礎から学ぶ比較教育学』（共著、学文社、2014年）。新潟医療福祉大学健康スポーツ学科教職実践研究会編『教職概論 ワークシートを用いた実践的理解』（共著、大学教育出版会、2015年）。ほか。

古阪 肇(ふるさか はじめ)

1978年生まれ。2013年早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。現在、千葉大学大学院医学研究院特任助教。

専攻、比較教育学、イギリス教育研究、パブリック・スクール研究。

主要著作：長島啓記編『基礎から学ぶ比較教育学』（共著、学文社、2014年）。

岡田昭人編著『教育学入門 30のテーマで学ぶ』（共著、ミネルヴァ書房、2015年）。ほか。

鴨川 明子(かもがわ あきこ)

1974年生まれ。2007年早稲田大学大学院教育学研究科にて博士（教育学）。

現在、山梨大学大学院総合研究部教育学域（教職大学院）准教授。

専攻、比較教育学、マレーシア教育研究、ジェンダー論。

主要著作：『マレーシア青年期女性の進路形成』（単著、東信堂、2008年）。『アジア地域統合講座テキストブック アジアを学ぶー海外調査研究の手法ー』（単編著、勁草書房、2011年）。ほか。

【監修者略歴】

森下 稔(もりした むのる)

1967年生まれ。1997年、九州大学大学院教育学研究科博士課程単位取得後退学

現在、東京海洋大学学術研究院教授。

専攻、比較教育学、タイ教育研究。

主要著作：山田肖子・森下稔編著『比較教育学の地平を拓くー多様な学問観と知の共働一』（共編著、東信堂、2013年）。森下稔編集代表『第三版 理工系学生のための日本語表現法』（東信堂、2016年）。ほか。

体育・スポーツ系学生のための日本語表現法

2016年11月1日 初版 第1刷発行

[検印省略]

*定価はカバーに表示してあります

編者◎吉田重和・古阪肇・鴨川明子 発行者 下田勝司 印刷・製本／中央精版印刷

東京都文京区向丘1-20-6 郵便振替00110-6-37828
〒113-0023 TEL (03) 3818-5521 FAX (03) 3818-5514

発行所
株式会社 東信堂

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO., LTD
1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023, Japan
<http://www.toshindo-pub.com/> E-mail : tk203444@fsinet.or.jp

ISBN 978-4-7989-1387-2 C3037 ©S.YOSHIDA, H. FURUSAKA, A. KAMOGAWA